

中部人懇通信 No. 2

人権教育
主任対象

「中部人懇」は「中部地区人権教育懇談会」を略した名称です。被差別部落の完全解放をめざし、中部地区同和教育の推進をはかることを目的に1971年（昭和46年）に発足しました。本会の取組は同和問題をはじめとするあらゆる人権問題について語り合うことで、中部全体の人権意識の高まりを生み出してきました。教職員、市町行政職員、PTA関係者を対象として年5回の研修を行っています。

「中部人懇」って
こんな会です！



令和元年7月4日（木）に、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の人権教育主任を対象とした第2回中部地区人権教育懇談会を開催しました。その内容を報告します。

講義

「人権教育の創造～部落差別解消推進法を活かして～」

講師

びわこ成蹊スポーツ大学 教授 園田 雅春 氏

■講演の内容

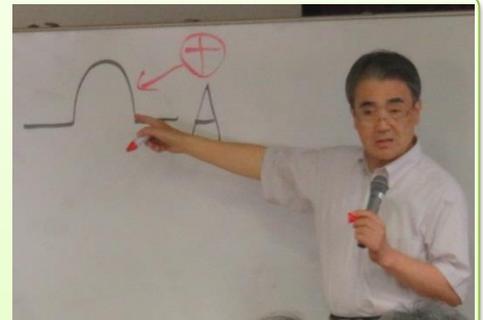
差別的な発言をしたおじいさんに、孫が「おじいさん、その考えおかしい。まちがってるで。」と学校で学んだ資料を見せながら思いを伝えた話を例に挙げ、人権教育の大切さや「被尊感情」「自尊感情」を育む人権教育について講義をしていただきました。

○今日的に存在する部落差別や人権問題について学ぶ「人権についての教育」と、自分自身が大事にされている、自分の人権は尊重されているということが実感できる学びである「人権としての教育」、2つのアプローチが大切である。

○部落差別解消推進法について、改めて条文を読む機会を作り、この法律そのものを教材化し学ぶことは重要である。「条文を小学生にわかるように翻訳しよう」「許されないとはどういうことか」など作業学習をグループで体験することは、有効な学びである。

○自尊感情は、大事にされていると実感できる「被尊感情」が土台にあって生まれてくるものである。子ども達の思いや考えに共感することが大切である。

○自尊感情を育てるためには、本人のよいところを見つけてほめるだけでなく、「自分はだめだ。」と思っている部分にプラスメッセージを発信すること。さらに、自分の存在自体が大切なのだという絶対的自尊感情を育むような関わりが大切である。



【参加者の感想より】

○「自分でシャッターを下ろしている子にいくら正しいことを言っても届かない」という言葉が心に残った。改めて、一人一人が大事にされ、安心できる学級づくりに努めていきたい。

○子どものいいところをキャッチして、価値つけて、全員に知らせる（4倍にアナウンスする）。自尊感情は、ガソリンと同じ、本当にその通りだと感じた。

○「人権教育の充実なくして道徳性に実りなし」という言葉に示されるように、改めて人権教育が全ての教育の基盤であると確認することができた。大切な事を落とさない人権教育を推進していかなければと思った。

○「部落差別解消推進法」の内容をもう一度確認したい。魂が揺さぶられる「部落問題学習」についての取組の大切さを改めて実感した。

【まとめ】

心に響くような教材を心に響くような方法で子ども達と教師が共に学び合うことが大切です。

人権教育主任の先生方が中心となり、自校の課題を把握した上で、子ども達に学ばせなければならないことを全職員で共通理解し、教材の精選や指導方法の工夫などを行い、人権教育の充実を図りましょう。